

fig. 1 発掘区周辺の地形・条坊及び遺構図

# I 調査の経過と概要

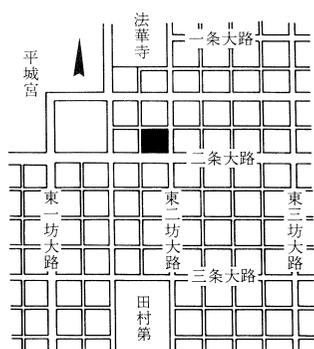


fig. 2 平城京左京二条二坊十三坪位置図

この報告書は平城京左京二条二坊十三坪において、3次にわたる発掘調査を行なった報告である。

第1次は、レストラン・シャロン建設に伴う事前調査。第2次は宅地造成の申請を受けて事前調査したもの。第3次はホテル建設に伴うもので、ホテル建設地(第3次東)は、第2次調査地を含む、その西にホテル用の駐車場とプールの建設が予定されたので(第3次西)、併せて事前調査したものである。第1次は平城宮跡発掘調査部の第131-31次に、第2次は141-5次に、第3次は151-11次にそれぞれあたる。発掘面積・調査期間はtab.1のとおりである。

調査地は、平城京条坊では左京二条二坊十三坪にあたり、南面を二条大路、東面を二坊大路で画している(fig.1)。西隣の坪は、奈良市水道局建設に伴う奈良市の発掘調査で、総柱の廊状建物・曲池・築地・二条大路北側溝を検出した左京二条二坊十二坪<sup>(1)</sup>にあたる。北隣の坪は、二条二坊十四坪にあたり、第89次の調査で東西棟建物と塀を検出し、金属工房関係の遺物が出土している。二条坊間路を隔てて北西の左京二条二坊十坪の位置には、阿弥陀浄土院がある。阿弥陀浄土院は第80次調査<sup>(3)</sup>で、東西棟の礎石建物とその北方に南廂付の僧坊風掘立柱建物を検出している。阿弥陀浄土院の西は平城宮東院に隣接、北は法華寺に隣接する。本調査区の南に目を転じると、二坊南に左京三条二坊十五坪<sup>(4)</sup>がある。十五坪は、坪の中心部分を全面発掘し、8・9世紀における坪内の遺構変遷が明らかになった貴重な遺跡である。十五坪の二坊西は、三条二坊七坪にあたり、ここでは103-1次、112-3次、118-23次の調査で、東二坊坊間路側溝・坊境小路・掘立柱建物を検出している。

以上のように、左京二条二坊十三坪の地は、奈良時代において、平城宮の東南約300mの地点に位置を占め、南限を二条大路、東限を二坊大路で画する好地を占めていた。

- 1 西崎卓哉『平城京左京二条二坊十二坪』『奈良県観光』321号 1983年8月
- 2 奈文研『昭和49年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』 1975年4月
- 3 奈文研『昭和47年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報(2)』 1973年5月
- 4 奈文研『平城京左京三条二坊』奈文研学報第25冊 1975年10月

次数	調査地区	面積	調査期間	所有者	発掘担当者
1次(131-31)	法華寺町250-1・251・252	170m <sup>2</sup>	'82 2.8~2.23	鈴木勝	杉山洋
2次(141-5)	法華寺町256	275	'82 5.10~5.26	塚本宗敬 杉本繁次郎	松村恵司
3次東(151-11)	法華寺町259	800	'83 8.29~9.16	加門正一	宮本長二郎
3次西(151-11)	法華寺町263	1,000	'83 9.2~10.21	杉本繁次郎	山崎信二

tab.1 第1~3次調査の面積・期間